


<p>福島大学附属図書館報</p> <p>書 燈</p>		<p>No.23</p> <p>1999.10.1 発行</p> <p>〒960-1293 福島市松川町浅川字直道2 TEL (024) 548-8083 http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/ 福島大学附属図書館</p>
-------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

『役に立つ／立たない』図書館活用法

行政社会学部 鈴木 めぐみ

図書館の利用については、発表、レポート、卒論のための調べもの、勉強など明確な目標と対象を持った場合と、「何か面白いものはないかな」と漠然とした期待をもって利用する場合の二つが考えられるように思う。

「調べもの」に関しては、いかに正確かつ効率的に情報を収集できるかが重要になってくる。

図書館というのは、よく使う情報はもちろんのこと、いつ誰が使うかわからないものも含めて、情報が多く蓄積されている方がいい図書館であると私は考えている。(何が将来必要になるか誰が予想できようか！ただ、すべてがそうある必要も、場所と予算もないが……)しかし、大規模になればなるほど、膨大な資料を前に迷路を探索する思いがすることになる。けれども、図書館たるもの、整理され、どこに何があるかわからなければ図書館ではない。ただの倉庫である。であるから、たとえ迷路のようであっても必ず探し出す方法はあるはずなのである。

本を例にとれば、探したい書名や著者名などがわかっている場合は比較的楽である。大学の附属図書館であればコンピューター検索(1999年2月現在所蔵図書7割が入力済み)、カード検索により短時間で請求番号を調べられる。後は実物を書棚から見つけてくるのみ。ない場合は他の大学などから取り寄せてもらったり、コピーしてもらったりすることが(ただではないが)できる。

テーマだけが漠然とあり探す情報を特定できなかった場合、テーマもこれから探していこうという場合、これは問題である。これについて、簡単な答えはない。勉強するしかない。しかし、技術的な一般論として一つ述べるとすれば、情報がどこにあるかを示す情報というものが世の中には存在するという

ことである。書物、文献の目録である書誌が典型例であろう。自分に最も関係する分野でのこの「情報の情報」の種類と特色をなるべく早く把握することである。紙に印刷されているものもあれば、電子情報となっているものもある。

文献調査方法は実践(試行錯誤)を通して学んでいくのが一番である。(図書館で入門講座を開く場合があるのでそれに参加することもお勧めする。)必要な情報を探し出すことができる、これが大学で学んだ者が身に付けるべき技術のトップクラスに入ると私は考えているので、四年間でこの技術をぜひ磨いて欲しいと思っている。

さて、ここまではある意味で必要に迫られての話である。もう一つ、「何か面白そうなもの」を図書館でどう見つけるか、という話をしてみようと思う。

最も単純かつ何の芸もない方法なのであるが、私のお勧めは、散歩のように背表紙を見ながらひたすらぶらぶらすることである。空き時間のつぶし方としていかがであろうか。本というのは著者が面白いと思ったことを書くのである。世の中にはこんなことを面白がる人がいるのだとわかるだけでも結構楽しい。自分に関係しない分野の方がより楽しい。実に変なタイトルの本もある。目に留まる本は日々変わるはずである。気が向いたら読めばよい。掘り出し物を見つけるのには無目的・非能率的なのが案外良いのである。大きい図書館ほど、この散歩は楽しい。欠点は開架式でなければならないところである。

ひとは遊びとしても本を読む。遊びというのは往々にして無駄であり、役に立たないものほど楽しいものだ。巡り巡って役に立つ場合もあるが、それを遊びに期待するのは野暮というものであろう。学生時代に、この「無駄」を満喫していただきたい。

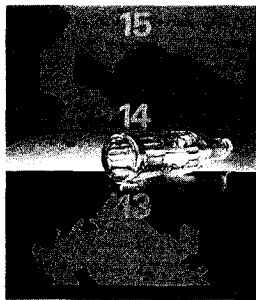
思い出の一冊

経済学部 クズネツォーワ・マリナー

今から14年前に、モスクワ大学の研修生グループの一員として日本の東海大学に留学していた頃、日本文学の授業を担当して下さっていた先生に、日本を理解するには読むべき作品のリストを作ってくださいました。振り替えてみると、そのリストは、結構膨大なもので、川端康成、夏目漱石、井上靖は当然のこと、三島由紀夫、大江健三郎、安部公房、司馬遼太郎、それに、村上春樹の小説までも載っていました。留学の残りの1ヶ月間で神田辺りの古本屋を仲間と走り回って、その本を、買い求めていることが思い出されます。その時手に入れた本は、ロシアに帰国してから、時間を作ってゆっくり読む、と思っていました。しかし、残念ながら、ほとんどの冊は、いまだにモスクワのアパートに「積読」のままに、私の読んでくれるのを待っています。

「思い出の一冊」、しかも日本語で読んだ「思い出の一冊」というのは、専門に関わりのある論文や図書などを除いて、普段はロシア語、又は英語で読む私には、...松本清張の「点と線」という推理小説(!?)でした。推理小説を、原則としては、好まない私が、どうしてそんなものを。それには、一つの理由がありました。

留学後、ロシアに帰ってきてからは、日本で入手した本を何冊か読むのを試みました。しかし、そのリストに載って



長編推理小説
点と線
松本清張

いた作品のほとんどは、もう既に露訳文で読んだことがあったせいか、日本語の能力がまだまだだった私には日本文を読むのが難しすぎたせいか、試みは失敗してしまいました。一番長く読みつづけたのは、三島由紀夫の「金閣寺」でしたが、文書に出るほとんど全ての単語を辞書で調べて「のろのろ」進むか、分からないところを無視して、作家の伝えたいことをあくまでも分からずに読み進めるか、という読書スタイルには、文学の美しさを感じられる魅力は一切ありませんでした。そこで、登場したのは、...松本清張の「点と線」でした。推理小説は、ジャンルから考えても、文書はそれほど難しくなく、事件を解くために一步一步進んでいくと同じように、各単語を調べながら日本語の謎を解いていくことを、全然不自然とは思いませんでした。「点と線」は一気に読みこんでしまいました。申し訳ないことに、

何の話だったかさっぱり覚えていませんが、読んだ頃から残っていた分厚いメモには、辞書で調べてきた単語とその訳が並べてありました。それ以来、外国語の勉強をするには、推理小説の読書も本当に役立つと、私は確信しています。松本清張の「点と線」は、大学生の私の言語能力を高めてくれた、まさに「思い出の一冊」です。

大学図書館雑感

カウンター
の内側から

大学院地域政策科学研究科
尚 得志

私にとっての大学図書館は非常に神聖な存在である。中国では大学進学率が非常に低いので入試の準備に四苦八苦してやっと大学に合格して、始めて大学図書館の門に入った人々の心境は実に感無量であり、大学図書館は彼等にとって憧れの聖地である。

多くの大学生にとって余暇を大学図書館で過ごすことは極普通のことである。そのため図書館はいつも混んでいて、早く行かないと椅子さえ確保できない恐れもある。中国の大学生は殆どキャンパス内の寮に下宿しているので、夜図書館の閉館時間も九時半とか十時とか比較的遅い。閉館時間になってもズルズルとすぐ帰らない人もいるが、この点においては日本人も同じ、もしかしたらこれは万国共通?

福島大学の図書館カウンターで仕事してあつという間に一年が過ぎようとしているが、最初に驚いたのは館内利用者数は多かったり少なかったり非常にアンバランスのことである。特にときには土曜日の早朝になると広い図書館に職員含めて十数名しかいないこともあり、電気代のことを考えると本当にもったいない気持ちでいっぱい。

イメージから言うと勉強意欲においては中国大学生の方が積極的であるかもしれないが、図書館のルール守りにお

いては日本人大学生の方が良いと思われる。周りの読者に迷惑をかけないような心遣いがなければ図書館を利用する資格が無いというのはあくまでも私個人の主張であるが……

ちょっと気になることを二つ言いたいと思う。一つは最近パンや飲み物等の食品を館内に持ち入りする人が増えている傾向が目立っている。図書館は食堂ではないので、館内飲食を止めてほしいと思う。

もう一つはカウンターに来る一部の学生は本を渡してから後は黙ったまま待つだけで、何しようと思っているのか全然分からない。カウンター係の職員や助手に自分の意思を伝えることはサービスを受けるための最低条件であるので是非協力してもらいたい。たとえ一言でもいい:“返却します。”とか、“貸出しをお願いします。”とか。図書館を利用することは何も恥ずかしいことが無いので勇気を持って自分の意思を堂々とお伝えください!

図書館をどンドンご利用ください! あなたの知らない世界があなたをいつでも待っているのよ!



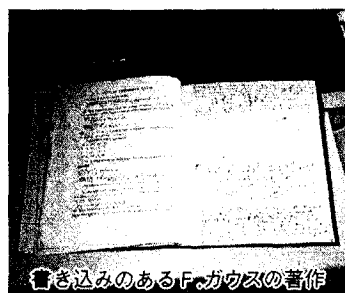
「ハンガリー・コンコイ天文台の図書室」

教育学部 中村 泰久

“外地留学先の図書館について”ということで原稿依頼を受けた。しかし、利用したのはもっぱら滞在先のハンガリー科学アカデミーに属するコンコイ天文台の図書室だけであって、とても「図書館」とは言えないのだが、それでもそこには古い文献がたくさん残っていて面白かったので、たまには毛色の違ったものが載るのも意義あるかと考え紹介する。

この天文台自体は128年前に個人天文台として創設され、それが国に寄贈されて今年(1999年)でちょうど100年という歴史を持っており、それを記念する集会などもこの夏に開かれたとのことである。図書室はその一部にあるのだが、熱心に文献を収集する努力を続けてきており、その意味では内容的になかなか充実している図書室である。

ところでこれは日本では考えられないことだと思うが、天文台の建物の階下の両翼部にかつての台長の子孫の家族が住んでいた。はじめの頃はなんだか様子がおかしいなということしかわからなかったが、現台長などに聞いてようやく事態が理解できた。かつての台長が住み込みで勤めていたことの当然の権利として、その子孫にあたる家族も建物内に住み続けることができるとのことであった。今では天文台とはまったく無関係な仕事をしているにもかかわらずである。(ウーン。)天文台は研究面でも人的にも発展してきているので、いまや手狭さが大きな悩みとなっているのだが、もしもそこを空けてほしいならアカデミーは同程度の代替の住居を用意してあげねばならず、現在のブダペシュトの住宅の高値ぶりからしてとても出せないとのことであった。その結果、そのような事情で図書室も



書き込みのあるF.ガウスの著作

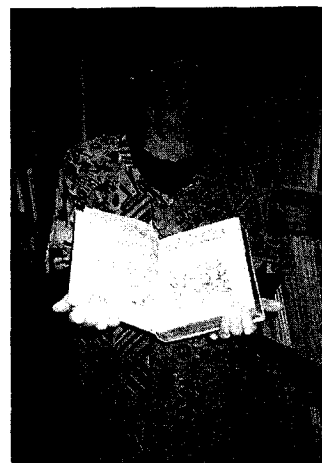
不十分なスペースしか割り当てられておらず、本や雑誌類の保存場所には苦労していた。

この図書室にはとくに自然科学関係の昔の書籍が多くそろ

っていた。写真にあるのはごく一部であるが、中にはきわめて貴重な書物もあるようで、普段は鍵をかけてある階に置いてあるが許しを得て入ればすぐ手に取れるようにそこにある、というのがとても素敵に感じられたことであった。あの有名な数学者のF.ガウスに習ったという人のきれいな書き込みが残っているガウスの書籍や今でもきれいな世界最初の色付き天文図書などもあり、歴史をもつ文化の強み、底深さが感じられた。

さて、勝手に登場させてしまったのであるが、写真中でG. ガリレイの著作を手には持っている女性は長年図書室で働いてきて、自身でも図書室の書物についての著書のあるヴァルガさんで、まさに図書室の生き字引といった方であった。彼女に聞けばどんなマイナーな出版物でもどこにあるのかがすべてわかる。あ、それは上の階の右奥の棚の何段目に紐でくくって置いてある、といった具合に。場所柄からいって東欧圏の小さな雑誌類もかなりそろっており、私も滞在期間の最終盤に小さな研究ノートを発表する際には大いに利用した。その際である、ヴァルガさんの頭脳中の検索システムのすごさを見せつけられた。しかし、同時に言うておかなくてはならないが、今やパソコンによる検索システムも機能するようになっており、新しい雑誌や書籍はたちまち在所がわかるようになっている。また、滞在期間中に図書室に自動キーロックシステムが導入され、古い建物の中ではどんどん「近代化」が進行していた。

彼女はこの図書室をととても誇りに思っており、天文台に滞在した人はまずはこの方から貴重書籍類について説明を受けるのを常としているのであった。サバティカルをヨーロッパで過ごすのを利用して天体分光の歴史の本を書こうとしたニュージーランドの学者がここを訪れ、他のどこにもなかった古い文献がここにはまとまってあると喜んだということを彼女から聞いたが、まさにそれもありませんかと思ったことであった。



G.ガリレイの本を手にする
図書室の生き字引Varghaさん

図書館の将来への展望

館長 長尾 光之

福島大学図書館は図書館関係の教職員によって運営され、主として教職員・学生が利用しています。しかし、福島大学図書館だけで独立して存在しているのではなく、他大学図書館、公立図書館などとも連携をとって、種々の情報交換や相互サービスをおこなっています。そのような話し合いをする会合には、福島県内の大学図書館等が集まる「福島県内大学図書館連絡協議会」、東北地方の国公立大学の図書館が集まる「東北地区大学図書館協議会」、同じく東北地区の国立大学の図書館が集まる「国立大学図書館東北協議会」、全国の国立大学図書館が集まる「国立大学図書館協議会」などがあり、それぞれ年1回会議を開いています。

これらの会議のなかでは、現在の図書館が当面しているさまざまな課題について意見が交換されるとともに、1つ2つの図書館では解決できないことを、多くの図書館が共同して各方面に呼びかけ、実現をはかるような意見の調整もおこなわれます。

福島大学図書館がかかえている課題は、福島大学独自のものもあり、また、他大学と共通しているものもあります。それぞれの課題ごとにその位置づけをみて行きましょう。

冊子体の書籍・資料

図書館をめぐる環境が大きく変化し、CD-ROMやビデオなどの媒体が増えてきているとは言っても、やはり図書館のなかでいちばん重要な位置を占めているのは冊子体の本や資料—いわゆる「紙の本」です。全国どこの図書館でも書籍の増加には頭を悩ませており、書架の増設や書庫の増築の要望をもっています。福島大学図書館では平成6年度に書庫が増築されましたので、他大学にくらべるとややめぐまれていると言えるでしょう。冊子体の図書が図書館のなかで大きなスペースを占めていることは全国の各大学図書館で共通の悩みになっています。各図書館で重複している図書も多く、すべての図書館があらゆる書籍を所蔵していなくとも良いのではないかとの考え方から、国立大学共同利用の保存図書館をつくるべきだ、との声が以前からあり、これを支持する意見も年々高まっています。

そのほか、書籍については紙の劣化の問題があります。現在、各大学図書館で所蔵している書籍はその紙の劣化により、数十年後、あるいは百数十年後には寿命が来ると予想されています。図書を配置す

る場所の温度や湿度を適切な状態に置くとともに、今後作成される図書には千年の寿命を持つと言われる「中性紙」のような酸性度の低い紙を用いるなど、出版社を含む書籍関係者全体で対策を講じていかなければならないでしょう。

雑 誌

図書館で購入したり、寄贈されたりする雑誌も年を追って増加しています。そのうち、どの雑誌を製本保存するか処分するかということについては大学ごとに方針が異なっています。大学によっては保存や処分の基準をつくっているところもあります。福島大学図書館では購入した研究誌・学生用雑誌は各学部の研究室の判断によって、製本して保存するか、製本せずに短期保存するか、廃棄するかを決めています。寄贈された紀要類は、論文集は製本保存し、月報・ニューズレターなどは製本せずに短期保存しています。寄贈された一般紙はその内容によって、製本保存するか、製本せずに保存するか、廃棄するかを判断します。

研究・教育予算の全般的な実質的縮小により雑誌の購入にも困難が現れています。とくに外国雑誌の高騰は各大学図書館共通の悩みとなっています。

利用者サービス

大学図書館は学内的には開館時間の延長などのサービス向上が求められています。本学図書館でも、長期休暇中の夜間開館などが課題になっています。大学職員の人数が削減されつつあるという最近の状況のもとでは、サービスを向上するためにあらたに人を配置するのはなかなか難しいことですが、夜間や休日は無人化しつつ24時間開館を実現した山口大学の例などは参考になるでしょう。

いま、全国の大学で大きな流れとして進行しているのは学外者の大学図書館利用です。本学でも、相互協力関係にある図書館とは、現物貸借・文献複写のサービスをおこなっており、紹介状の持参等により、学外者の利用も可能となっています。しかし、現在、いくつかの大学でおこなわれている学外者へのサービスはもう一歩踏みこんだもので、現物の図書帯出をも含めています。県内ではいわき明星大学がこの8月からこのサービスをはじめ、マスコミでも報道されました。国立大学で実施しているのは、長崎大・山口大・愛知教育大などです。学外の一般市民を対象にした現物貸出をも含めた大学図書館利

用です。これらの大学の報告を聞いていると、学外者への貸出を実施するうえでいちばん懸念されたのは、どこでも「図書が返ってこなくなるのではないか」ということだったそうですが、これまで「返ってこない」というトラブルは一件も発生していないそうです。

そのほかの課題としては身障者へのサービス体制があります。新築や改造をする際に、バリア・フリーの通路や施設をつくることはもちろん、視覚・聴覚障害者のためのパソコン導入も求められています。

電子化への対応

コンピュータは社会の各方面に普及していますが、図書館は電子化、情報化の影響をもっとも大きく受けている部署のひとつでしょう。とくに蔵書目録の電子化は図書館各部門の全面的な自動化にとって不可欠の前提条件です。本学でも、目録の電子化を精力的におし進め、相当な成果をあげつつありますが現在のところ全図書・全資料の電子化はまだ完成されておられません。また、学内の図書館以外のセンター所有の図書等の目録を電子化し、図書館と連携できるようにすることも課題です。

全国の大学でも目録の電子化は進み、最近はずいぶん他大学等の図書館を訪ねなくとも、インターネットで書籍の所在を確かめ、相互貸借方式で借りだすことも可能になりました。しかし、入力完成していない書籍や、特殊な資料等はまだ、その段階にいたってはおりません。

近年、理科系を中心に学術雑誌を電子化した「電子ジャーナル」が多く発行されるようになりました。冊子体ではなく、コンピュータの画面で論文等を閲覧し、必要に応じてプリントアウトするものです。印刷、製本の時間が節約でき、海外の資料でも一瞬のうちに見ることができるといって優れた面をも

っていますが、問題はたいへん高価であるということです。このため、北海道、関東、九州などではいくつかの大学が連携して電子ジャーナルの共同購入を行っています。学術論文の電子ジャーナル化は今後は文化系の分野にも及んでくることでしょう。

電子化、情報化がすすむにつれて大学人はコンピュータに関する基本的知識を持つ必要性がせまられています。本学で全学的レベルで展開されているハード面の整備や、学生へのコンピュータ・リテラシー教育は図書館利用とも深い関係があります。

図書館職員をはじめとする教職員にたいするコンピュータ使用能力の研修は、今後量的にも質的にも高めて行く必要があります。また、電子ブック、CD-ROM、ビデオ・テープなどは書籍にくらべて高価なので、適切な予算的うらづけを求めねばなりません。図書館内部のビデオ編集機器、コンピュータ機器などのハード面の整備も不可欠です。

福島大学は今年開学50周年をむかえました。旧師範学校、旧経済専門学校の蔵書を基盤としつつ、新制大学になってからも精力的に収書をつづけ、現在その蔵書は70万冊を越えています。平成9年には、経済史学書を中心とする大塚文庫、運輸・交通関係書籍を中心とする今野源八郎蔵書の2大コレクションを加えて、その質は一段と高まりました。

10月末から11月初めにはこの2コレクションに西洋近代思想史関係資料、和算資料、江戸時代の版画など本学図書館が所蔵する貴重な書籍を一般公開する予定です。

福島大学が蓄積したこれらの貴重な蔵書を基礎にさらにいっそう人類の知的遺産の収集を続けるとともに、新しい時代にみあった電子資料や電子システムを構築し、それらを的確に使用しうる人材の養成や体制の整備をおこなって行きたいものです。

図書自動貸出返却装置 (ABC) の稼動について

情報サービス係

5月の連休明けより、約2週間試験稼動をして5月24日から本格的に稼動を開始しました。この装置は、Automatic Book Circulation(略称ABC)といい、図書の貸出返却を利用者がみずから機械を操作し、図書の表紙に貼られたラベルのバーコードを読み取らせることにより、利用者自身で貸出返却を行うものです。利用の多い時期に貸出返却の効率化、利用者に対する他のサービスの迅速化等の効果を発揮すると思われま



図書自動貸出返却装置 (ABC)

学内教官著作寄贈図書を紹介

『社会科理論與融合課程之研究』

台北 商鼎文化出版社 1999.1

臼井 嘉一著 (教育学部教授)

楊 思偉譯 (台湾師範大学教授)



この著書は私の友人である台湾師範大学の楊思偉教授が、日本で発行されている拙著『社会科カリキュラム論研究序説』(学文社1989年12月)を翻訳して下さるといふことで作成されたものである。本著書の内容は、日本とアメリカの社会科カリキュラムの内容・

特質の研究とそれを支える理論について述べられているが、併せて台湾・中国大陸の歴史・地理・公民の教育及び社会科という形態・内容論についてもつけ加えられている。実は、10年ほど前に台湾師範大学の招きで訪台し、台湾文部省の社会科教育のカリキュラム改訂を前にして何度か講演したことがあり、それがきっかけで本書が実現した。本書の6割は拙著の翻訳で、残りの4割は中国や台湾のことも加筆して本書独自の内容になっている。

「台湾漢字」なので日本人でも内容のおおまかな点についてはご理解いただけるものと思う。

(請求番号375.3 / U95s 留学生用図書)

『企業内地域間分業と農村工業化』

東京 大明堂 1999.2

末吉 健治著 (経済学部助教授)



「今朝新庄を出てから、険しい尾根を越えて、非常に美しい風変わりな盆地に入った。ピラミッド形の丘陵が半円を描いており、その山頂までピラミッド形の杉の林で覆われ、北方へ向う通行をすべて阻止しているように見えるので、ますます奇異の感を与えた。そ

の麓に金山の町がある。ロマンチックな雰囲気のある場所である。」(イサベラ・バード、高梨健吉訳『日本奥地紀行』平凡社、1973年、p.160~161)。

イサベラ・バードが東京から北海道まで旅行したのは1878年のことである。それから100年を経て、彼女の見た農村は急激な工業化の波に洗われることになった。彼女が「ロマンチック」と書いた「金山の町」を含む山形県最上地域を対象として、農村における工業化の実態を分析したのが本書である。キーワードは企業内地域間分業、地域的生産体系、地域労働市場、多就業構造。

(請求番号509.2 / Su19k 学内刊行物コーナー)

『信用制度の経済学』

東京 新評論 1999.3

下平尾 勲著 (経済学部教授)



最近金融現象に関する書物が多く出版されているが、個別的な金融現象を記述したものがほとんどであり、基本的な理論にまで言及したものが少ないように思われる。まず問題となるのは、貨幣・信用・金融制度とは何であり、それがいかに形成され、どのような役割を果たし、その限界は

何であるかということである。

信用制度は、具体的にでき上がった複合的な産物であるから、制度の根本的把握のためには、原点に立ち返って発生史的に理論的研究を行う必要がある。その結果として、現実的、具体的、多面的な役割および地位と意義を解明することができる。

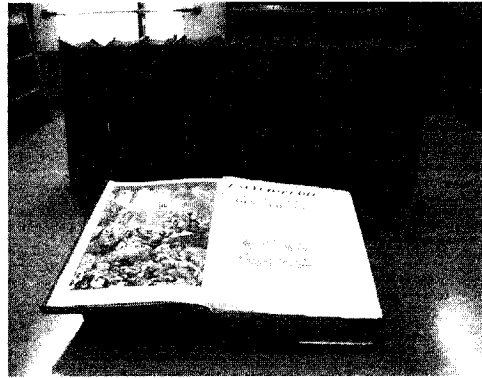
私の研究目的は、あくまでも現代資本主義が直面している貨幣・信用・金融制度の危機の解明にあるが、本書は、理論、学説、歴史を縦軸に、グローバルな視点を横軸にして、最近の諸問題を理論化し、古典理論を現在の状況の中で考えつつ、わが国の立場で論じてみようという意識の下に書かれた。

(請求番号338.01 / Sh51s 学内刊行物コーナー)

◆福島大学創立50周年記念事業◆

福島大学附属図書館所蔵稀覯書展

福島大学創立50周年記念事業の一つとして、福島大学附属図書館所蔵稀覯書展を開催いたします。展示会場には、本学がこれまでに収集してきた『アンシクロペディ（百科全書）』などの西洋古版本をはじめ、かずかずの稀覯書を展示する予定です。郷土資料、福島大学関係資料なども含まれます。お誘い合わせのうえご覧くださいませようご案内いたします。



『アンシクロペディ（百科全書）』（一部）
（1751年～80年刊 フォリオ版全35巻 初版本）

日 時：平成11年10月29日(金)～11月3日(水)
展示時間：正午から午後7時まで（11月1日(月)は午前10時から）
会 場：福島テルサ4F ギャラリー（場所は下図をご覧ください）

◆展示品目◆
(予定)

○洋図書

近世ヨーロッパ大陸諸国の貴重書、『百科全書』とその周辺、近代フランス経済思想の初版本、近代イギリス経済思想の貴重書、19世紀フランス初等教育史関係資料、第一次世界大戦のいわゆる戦責問題をめぐる欧州各国の外交文書集

○漢 籍 十七史（琴川・毛氏、汲古閣刊本）

○和 本 和算書、美術書、武芸書、文芸書

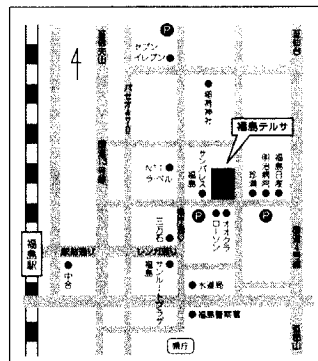
○寄贈図書関係

大塚久雄文庫（一部）、今野源八郎先生旧蔵書（一部）

○郷土資料関係 磐梯山噴火状況実施調査書等、城下絵図など

○前身学校資料関係

福島（県）師範学校関係資料、福島高商・経専関係文献資料



〈福島テルサ案内図〉

交通のご案内

- 福島駅より徒歩10分
- 福島西I.C.より車で20分
- 福島飯坂I.C.より車で15分

附属図書館開館・休館予定表

平成11年10月～平成12年3月

夜間開館停止 (開館時間 9:00～17:00)
 開館日 (開館時間 9:00～21:00)
 休日
 ●印 休館日

日	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	金	月	水	土 ●元旦	火	水
2	土	火	木	日 ●	水	木
3	日	水 ●文化の日	金	月 ●	木	金
4	月	木	土	火 ●	金	土
5	火	金	日	水 ●	土	日
6	水	土	月	木 ●	日	月
7	木	日	火	金	月	火
8	金	月	水	土	火	水
9	土	火	木	日	水	木
10	日 ●体育の日	水	金	月 ●成人の日	木	金
11	月 ●振替休日	木	土	火	金 ●建国記念の日	土
12	火	金	日	水	土	日
13	水	土	月	木	日	月
14	木	日	火	金 ●大学入試センター試験のため午後休館	月	火
15	金	月	水	土 ●大学入試センター試験のため休館	火	水
16	土	火	木	日	水	木
17	日	水	金	月	木	金
18	月	木	土	火	金	土
19	火	金	日	水	土	日
20	水	土	月	木	日	月 ●春分の日
21	木	日	火	金	月	火
22	金	月	水	土	火	水
23	土	火 ●勤労感謝の日	木 ●天皇誕生日	日	水	木
24	日	水	金	月	木	金
25	月 ●臨時休館(予定)	木	土	火	金	土
26	火 ●	金	日	水	土	日
27	水 ●	土	月 ●	木	日	月
28	木 ●	日	火 ●	金	月	火
29	金 ●	月	水 ●	土	火	水
30	土 ●	火	木 ●	日		木
31	日		金 ●	月		金

※ 臨時に閉館する場合、及び開館時間を変更する場合は掲示します。

目次

- ・『役に立つ／立たない』図書館活用法
 - …鈴木めぐみ(1)
- ・思い出の一冊……クズネツォーワ・マリーナ(2)
- ・大学図書館雑感
 - カウンターの内側から—……尚 得志(2)
- ・「ハンガリー・コンコイ天文台の図書室」
 - …中村泰久(3)
- ・図書館の将来への展望……長尾光之(4)
- ・図書自動貸出返却装置 (ABC) の稼動について
 - …情報サービス係(5)
- ・学内教官著作寄贈図書の紹介
 - 『社会科理論與融合課程之研究』……臼井嘉一(6)
 - 『企業内地域間分業と農村工業化』……末吉健治(6)
 - 『信用制度の経済学』……下平尾 勲(6)
- ・福島大学創立50周年記念事業
 - 「福島大学附属図書館所蔵稀観書展」……(7)
- ・附属図書館開館・休館予定表
 - (平成11年10月～平成12年3月) ……(8)